

令和2年度第2回仙台市地域保健・保健所運営協議会 議事録

開催日時	令和3年2月3日（水）14：00～
開催場所	市役所本庁舎2階 第一委員会室
委員 (順不同・敬称略)	寶澤篤（委員長） 相澤雅子 赤坂和昭 猪股佳子 及川敦子 岡崎博 小田島久美子 片倉成子 北村哲治 小菅玲 西村秀樹 又木潤 松永弦 森谷就慶
事務局	健康福祉局 局長 理事兼保健所長 障害福祉部長 保険高齢部長 保健衛生部長 保健所参事 衛生研究所長 認知症対策担当課長 保険年金課長 保健衛生部主幹 保健管理課長 健康政策課長 医療政策担当課長 健康安全課長 生活衛生課長 子供未来局 局長 子供育成部長 子供保健福祉課長 各区 青葉区保健福祉センター所長 宮城野区保健福祉センター所長 若林区保健福祉センター所長 太白区保健福祉センター所長 泉区保健福祉センター所長 教育局 健康教育課長
次第	1. 開会 2. あいさつ 3. 委員紹介 4. 議事 （1）委員長職務代理者指名 （2）「第2期いきいき市民健康プラン後期計画」に基づく令和2年度の取り組みについて （3）新型コロナウイルス感染症の状況について （4）新型コロナウイルスワクチン接種の状況について （5）その他 5. 閉会

発言者等	
〈開会〉 進行	定刻になりましたので、令和2年度第2回仙台市地域保健・保健所運営協議会を開催いたします。本協議会の開催に当たりまして、寶澤委員長からご挨拶をいただきたいと存じます。

<p>寶澤委員長</p>	<p>皆さんそれぞれの立場で、公衆衛生の立場から皆様に市民の健康を守っていただけて本当にありがとうございます。特に今年度、日常の公衆衛生活動のみならずコロナに関わる部分で多くの課題があったと思いますが、仙台市は、本当に皆さんの努力で比較的被害が小さく済んでいるのかなと思います。健康関連部局だけでなく多くの方々のご協力をもってコロナと闘われていることに本当に感謝申し上げます。</p> <p>今日の議題は「第2期いきいき市民健康プラン後期計画」に基づくものになりますが、併せてコロナ絡みのことについても、接種に関する検討状況についてご報告いただくことになっております。</p> <p>仙台市を支えてくださっている保健所の皆様の運営に貢献できる内容にしたいと思っております。ぜひ皆様方からの積極的なご意見をいただければと思いますので、今日もどうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>進行 〈議事〉 進行</p>	<p>続きまして今年度就任されました委員の皆様方をご紹介します。</p> <p>仙台市立蒲町中学校校長又木委員です。</p> <p>一般社団法人仙台市医師会副会長松永委員です。</p> <p>本日の協議会の成立についてですが、半数以上の委員の方に出席していただいておりますので、仙台市地域保健・保健所運営協議会条例第5条の規定により、本協議会は成立しております。</p> <p>では、議事に入ります。進行は委員長にお願いしたいと存じます。</p>
<p>寶澤委員長</p>	<p>まず議事に入ります前に、議事録署名人は、これまでどおり私から指名させていただきます。今回の議事録署名人は、東北文化学園大学の森谷先生にお願いしたいと思いますですが、よろしいでしょうか。</p> <p>では、議題の1つ目、「委員長職務代理者の指名」ですが、仙台市地域保健・保健所運営協議会条例第4条第3項の規定によりまして私が職務代理者を指名することになっております。</p> <p>私としましては、仙台市医師会の松永先生にお願いしたいと思いますですが、松永先生、皆様、よろしいでしょうか。(異議なし)</p> <p>では、次の議事に入らせていただきます。「第2期いきいき市民健康プラン後期計画」に基づく令和2年度の取組についてです。事務局からご説明お願いいたします。</p> <p>検討すべき項目が多いので、まず全体の説明後に、資料1の6つの重点項目と「社会環境改善・整備」に区切って議論したいと思います。</p>
<p>健康福祉局 健康政策課長</p>	<p>健康政策課の木村です。よろしくお願いいたします。</p> <p>資料1の1ページ。「第2期いきいき市民健康プラン後期計画」に基づく令和2年度の取組についてご報告いたします。</p> <p>委員長からもございましたが、令和2年度におきましては新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い感染リスクとなる各種イベント等を中止したため、啓発の機会を確保することが困難でありました。そこで3つの密を回避した新しい生活様式に沿った形で分類ごとに取り組んでまいりましたので、そのご報告をいたします。</p>

重点分野1の未来の健康をつくる生活習慣病予防、1.生活習慣病予防の周知・啓発といたしまして(1)学齢期におきましては、生活習慣が形成される学齢期に健康的な生活習慣を身につけることができるようPTAフェスティバル特設ホームページ内に資料を掲載し啓発を行ってまいりました。

(2)Withコロナ時代の健康づくりということで、屋内で過ごす時間が長くなることによる影響が懸念されるため、安全・安心に運動・スポーツを実施するための留意点と運動事例を仙台市ホームページ内で紹介したところです。

2.健診受診率の向上を図るための啓発は、(1)健診受診率向上に向けた環境整備として、今年度より電子申請による市民健診の申込みを、パソコンだけではなくスマートフォン・タブレットにも拡大したほか、調剤薬局への市民健診申込案内設置の依頼や協定企業等を通しまして市民健診の周知啓発を図っております。

2ページ、各種健康審査の実施状況ですが、初めにその表に1つ訂正がございます。表の2番目の国保特定健診ですが、令和2年11月末現在の受診者数は4万6,995人です。受診率は32.5%になります。大変失礼いたしました。修正をお願いいたします。

コロナの影響で開始時期が遅れた健診もあり、11月末時点の受診率が低くなっているほか、申込数も昨年度よりやや低くなっています。

(2)ピンクリボンオンライン講座の開催についてです。

若い世代の乳がんに対する意識向上を目的として、大学生を対象にオンライン形式での講座を開催いたしました。例年は乳がんに関する講演会を行っていましたが、コロナ禍でできることとして取り組みました。

3ページ、3.健診結果でリスクのある人への重症化予防の取組、(2)CKD(慢性腎臓病)の病診連携体制の構築です。今年度の新たな取組ですが、慢性腎臓病の予防対策として、かかりつけ医と腎専門医の病診連携体制の構築に向けて、医師会、かかりつけ医、腎専門医をメンバーとしたプロジェクト会議を立ち上げました。人工透析に至る前に、かかりつけ医から腎専門医にスムーズに紹介できる体制づくりについて、令和3年度の開始に向けて検討を重ねているところです。

4.歩きやすい、運動しやすい環境づくりです。(2)は既に本庁舎や上杉分庁舎、地下鉄勾当台公園駅の階段に表示をしておりますが、今年度、若林区役所の階段に階段利用を促す表示を掲示したところです。

4ページ、(4)コロナ禍での運動促進事業です。仙台市健康福祉事業団との共催事業で、3密を避けて体を動かす機会として、勾当台公園野外音楽堂にて「青空ストレッチ」、心拍数計を使用しながらウォーキングマップに沿って定禅寺通り・西公園周辺を個人で歩く「レッツ!!健幸ウォーキング」を開催したところです。

続いて重点分野2、気づく、つながる、支える心の健康づくりです。

1. 地域の相談窓口の周知・啓発、(2) こころの体温計。

パソコンやスマートフォンから仙台市のホームページにアクセスし利用できるセルフメンタルチェックシステムについて、アクセス数が伸び悩んでいたため、市政だより（令和2年12月号）に掲載したところ、11月から12月のアクセス数が8,234件となり、前年度の11月から12月のアクセス数の約1.65倍となりました。

5 ページ、(7)「仙台いのち支えるLINE相談／暮らし支える総合相談」の実施ですが、今年度、仙台いのち支えるLINE相談、それから暮らし支える総合相談を新たに開設いたしました。

全国健康保険協会宮城支部の協力の下、働き盛りの世代をターゲットに、チラシ、カード等を送付したところです。健康づくりに取り組む事業所約5,200事業所に送付をいたしました。

2. 震災後のこころのケアに関する啓発と被災者支援です。

(1) 復興公営住宅入居者等への支援として、昨年度より看護協会への委託により、復興公営住宅近隣のスーパーマーケットで「まちの保健室」を開催して、被災者が身近な場所で気軽に相談できるよう支援を行ってまいりました。開催回数、参加人数は、記載されているとおりです。

6 ページの重点分野3、健康な心と身体を支える食生活です。

1. 生活習慣病予防のための食生活の啓発。

(1)、昨年8月に健康政策課のフェイスブックを開設しました。「伊達なキッチン～だてきち～」というもので、週1回の投稿で、食生活についてのコラムやレシピなど写真つきで情報発信しております。

(2) 健康お役立ちレシピコンテストの開催です。「減塩レシピ」や「野菜たっぷりワンプレートレシピ」、この2つの部門でレシピコンテストを開催いたしました。優秀作品は、仙台市ホームページ、それから先ほどのフェイスブックで紹介したいと思っております。

2. 青年期における健康的な食生活の重要性と改善への啓発強化です。各区の保健福祉センターにおいて、管内の大学や専門学校と連携し、健康的な食生活の啓発を行っております。令和元年度に作成いたしました「大学生の食育ワークショップ」「Let'sベジライフ」というレシピ集を配布して、野菜の摂取についても啓発を行ったところです。

7 ページ、食生活改善の実践のための環境整備です。

(2) 仙台市「食育推進」ロゴマークの作成。

市民に広く食育を周知・啓発し、仙台市や関係団体等が一体となって食育を推進していくための共通のツールとして「食育推進」ロゴマークを作成しました。こちらは市内の美術系大学の学生からデザインを募集し、先日、この作品がロゴマークとして選ばれたものです。今後、食育活動において活用するとともに食育が市民にとって身近なものとなるように活動を進めてまいります。

重点分野4、生きる力を支える歯と口の健康づくりです。

	<p>1. 乳歯萌出期からのむし歯予防対策「フッ化物歯面塗布助成事業」開始に伴う体制整備です。</p> <p>小児科・歯科・行政等の連携により取り組む「フッ化物歯面塗布助成事業」を令和3年度から開始いたします。登録歯科医療機関向けの事業マニュアルを作成し、今年度歯科医療機関を対象にリモート研修を実施したところです。</p> <p>8ページ下、3. 学齢期の歯と口の健康づくりでは、小・中・高等学校におきまして保健指導や健康教育に活用できるダウンロード用の媒体やマニュアルを作成しました。これを学校運用システムに格納してタイムリーに活用できるような体制整備を図りました。</p> <p>9ページ、重点分野5、大切な人の健康を守るたばこ対策の推進です。妊婦それから学童・生徒などには、たばこが及ぼす健康影響等を広く啓発しているところです。</p> <p>4の受動喫煙防止対策のさらなる推進。10ページをご覧ください。</p> <p>(2)の②令和2年4月から改正健康増進法全面実施となりましたので、飲食店やビル管理者等への周知啓発を行いました。飲食店ビル管理者を対象とした仙台市受動喫煙防止対策個別相談会として実施をいたしまして、開催回数、参加については記載のとおりです。</p> <p>重点分野6は健康安全課長よりご説明をいたします。</p>
<p>健康福祉局 健康安全課長</p>	<p>健康安全課の中道です。重点分野6、日頃から一人ひとりが取り組む感染症予防についてご説明いたします。</p> <p>1の(1)ですが、新型コロナウイルス感染症関連の取組を記載しております。市内の感染状況は、後ほどご説明いたします。</p> <p>情報発信の取組として、東北医科薬科大学の賀来先生に委員長をお願いしています仙台市感染制御地域支援チームの方々と共同で感染状況の分析し、週報・月報をホームページに掲載をしております。</p> <p>また、検査状況、陽性者の発生状況は、毎日ホームページに掲載しております。情報発信、市民への注意喚起に努めています。</p> <p>相談体制は、県と合同で受診相談センター、コールセンターを設置し、症状のある方への医療機関への紹介を行っております。</p> <p>また、検査体制としましては関係機関にご協力いただき体制を確保してきたところですが、帰国者・接触者外来の医療機関や検査実施医療機関において必要な方の検査を実施しているところです。</p> <p>また、医療提供体制ですが、こちらも関係機関と連携して体制を確保しています。県・市が合同で事務局運営をしている医療調整本部において、患者の方の症状や基礎疾患、年齢等を踏まえて本部員の医師の方がご判断をいただき入院、宿泊療養につなげているところです。</p> <p>自宅療養の方などは食料品・日用品などの支援物資の送付やパルスオキシメーターの貸出を行う支援事業を1月中旬より開始しています。</p> <p>2. 予防接種事業ですが、(1)のとおり、個別通知それからホーム</p>

	<p>ページ等を通じての接種勧奨を行っているところです。</p> <p>また（２）は子育て支援の観点から、里帰りなど県外で定期予防接種を受けた方への費用助成、今年度も実施をしているところです。</p> <p>３．H I V・性感染症に係る検査体制や相談・カウンセリング体制の充実についてですが、こちら（１）のとおり、検査の予約は電話に加えて平成27年11月よりみやぎ電子申請サービスを活用しましたインターネットでの検査予約を実施しております。</p> <p>（２）のとおり、今年度検査は、新型コロナウイルス感染症の対応として、一部検査は休止をして体制を縮小して実施してきたところです。</p> <p>また（３）のとおり、N P O団体との連携は引き続き継続しております。スマートフォンアプリ向けの検査啓発広告掲載やインターネットサイト「仙台H I Vネット」の運営を継続しております。</p> <p>重点分野６は以上です。</p>
<p>健康福祉局 健康政策課長</p>	<p>続きまして、重点分野を支える社会環境の改善・整備です。</p> <p>11ページ中ほどからになります。</p> <p>後期計画では、６つの重点分野における健康づくりを支える柱として、新たに「重点分野を支える社会環境の改善・整備」を位置づけております。新型コロナウイルスによる影響が長期化する中、健康づくりの環境整備のために仙台市関係課、健康づくりに取り組む各関係団体・企業・学校関係者等との連携によりまして、異業種の垣根を超えて仙台の健康を守る体制づくりの推進を図ることとしております。</p> <p>（１）せんだい健康づくり推進会議ですが、令和元年度に地域保健と職域保健の連携による市民の健康づくりと各年代の継続的な健康づくりを推進することを目的として「せんだい健康づくり推進会議」を設置しました。</p> <p>この会議は、これまであった働く市民の健康づくりネットワーク会議を再構成し、食育保健・地域保健・医療関係に加えて新たに仙台市学校保健会と仙台市P T A連絡協議会を構成員としております。また、この会議にワーキンググループを設置し、協働事業を実施するなど取組を実施してきたところです。</p> <p>令和２年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、同会議及びワーキンググループを書面開催といたしまして、コロナ禍における健康づくりの取組等について意見及び提案を募りました。</p> <p>12ページをご覧ください。上の図に推進会議の構成団体やその目標について記載しておりますので、ご覧いただければと思います。</p> <p>（２）産業界との連携、①ヘルステック推進事業への参加ですが、ヘルステック推進事業は、医療・ヘルスケア分野にI T企業の参入を促し、課題解決を図る取組です。経済局が所管する「仙台市経済成長戦略2023」の7つの重点プロジェクトの1つとして、株式会社フィリップス・ジャパンが協働で進めているものです。健康政策分野は、健康課題の提示等</p>

	<p>の役割を担い、関係企業による具体の事業化を目指しています。</p> <p>②健康長寿産業連合会における情報収集・連携ですが、この「健康長寿産業連合会」は、健康寿命の延伸に関する業界の垣根を超えた活動や官民一体となった社会課題への取組について日本のトップ企業により設立された任意団体です。本市は、令和元年度よりワーキンググループにオブザーバー会員として入会をしているところです。</p> <p>③民間企業との連携です。民間企業等との連携窓口「クロス・センダイ・ラボ」を通じて、リコージャパンの社員を対象にアンケート調査を実施。社内で実施いたしました「ウォーキングチャレンジプログラム」の効果を把握し、令和3年度の働く世代のイベントの企画の参考とする予定です。</p> <p>13ページ。各分野における強化すべき社会環境の改善・整備は、先ほどもまでの重点分野の中でもお話したものもありますが、ご紹介できなかったことについて、こちらで話させていただきます。</p> <p>重点分野3の健康的な食生活、(1)地域における食育推進関係者の交流会、研修会の開催による人材育成です。</p> <p>保育施設、幼稚園、学校、児童館、食育ボランティアなど各機関の担当者が講演や事例発表、情報交換等を通じて資質向上と連携推進を図る機会を各区保健福祉センターや総合支所が設けていたのですが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、情報交換会に代えて啓発資料の送付を行ったものです。</p> <p>重点分野4の歯と口の健康づくり、14ページをご覧ください。(2)フッ化物洗口を実施する保育所・教育施設の増加・拡大です。子供の家庭環境に左右されることがなく虫歯予防に取り組むことができるよう保育・教育施設におけるフッ化物洗口導入・拡大を支援しています。</p> <p>①保育所・幼稚園・認定こども園におけるフッ化物洗口実施施設は176件となります。</p> <p>②小学校におけるフッ化物洗口パイロット事業といたしまして、仙台歯科医師会が実施主体となりまして学校、PTA、教育委員会、学校歯科医が連携いたしまして市内2校の小学校で実施中です。</p>
<p>寶澤委員長</p>	<p>重点分野ごとに、各委員からコメントをいただければと思います。</p> <p>まず私からは、コロナ禍におきまして、通常の事業をやるのも大変な状況の中、例年にも増した形で成果を上げていただいたということに感謝をしていることと、コロナ禍ということで非常に短期間、短時間しか工夫の期間がなかったと思いますが、非常に多くの工夫をしていただいたことにまず感謝したいと思っております。</p> <p>まず重点分野1、未来の健康をつくる生活習慣病予防について、お伺いしたいことやご提案等ありましたら発言いただければと思います。</p> <p>片倉先生、お願いします。</p>
<p>片倉委員</p>	<p>栄養士会の片倉です。3ページの3番の(2)慢性腎臓病(CKD)</p>

	の現在の人数、状況を教えていただきたいのですが。
健康福祉局 健康政策課長	CKDの患者さんの数というのは、ちょっと今手持ちにないのですが、人工透析に至る患者さんが年々増えている状況で、平成30年度で2,400人の人工透析の患者さんがいらっしゃるということです。
片倉委員	<p>ありがとうございます。慢性腎臓病から透析になる前、この透析というのは医療費が莫大にかかるということで、私も行政の栄養士を長くしており、ここに管理栄養士の関わり、食事指導の関わりがすごく重要になってくるわけですね。</p> <p>そのために、このプロジェクトの会議のメンバーでなくとも、慢性腎臓病の予防対策という意味で栄養指導をする管理栄養士の出番を考えていただければ、なお透析に移行する方々が減っていくかなという思いを感じましたので、将来的に考えているのかどうか、そのあたりをお伺いしたいなと思います。よろしくお願いします。</p>
健康福祉局 健康政策課長	初年度はCKDの病診連携というところで、かかりつけの先生から腎臓専門医の先生にどういうふうにバトンタッチするか、その紹介の仕方等の体制整備を構築するのですが、将来的には生活習慣改善というアプローチもしていかなければと思っていますので、専門職の人材育成やその仕組みをどうするかも含めて今後考えてまいりたいと思っています。
寶澤委員長	それでは重点分野2、気づく、つながる、支える心の健康づくりについてのご意見はいかがでしょうか。
片倉委員	5ページの2番の震災後のこころのケアに関する啓発と被災者支援というところで「まちの保健室」を開催しております。私は5年ぐらい前からですか、看護協会と栄養士会と一緒に南三陸町の支援として「まちの保健室」をウジエスーパーさんで実際やっていて、ここに気軽に相談にということで、参加者からは管理栄養士がいることで、いらっしゃる方にとってはとてもいいような状況を聞いていますので、将来的に管理栄養士もともに、こういった「まちの保健室」の中でご活用いただく考え方はあるのかお伺いしたいと思います。
健康福祉局 健康政策課長	現在は看護協会に委託をして、主に健康全般の相談に乗っていただいておりますが、委員のご発言のとおり、食事面の栄養は健康づくりに大切なことですので、今後検討してまいりたいと存じます。
寶澤委員長	<p>私からもいいでしょうか。「こころの体温計」なのですが、恐らく早めにスクリーニングして問題がある方々に早めに相談に行ってもらうことが趣旨と思うのですが、アクセスが増えて、ちょっと困っているという人たちが拾い上げて何かにつながった事例はありますか。</p> <p>要するにアセスメントして終わりなのか、その後、これが何かにつながっているのかということをご説明いただければと思いましたが。</p>
健康福祉局 健康政策課長	アプリにどなたがアクセスして、そういう状態になっているかという個人情報はこちらに届けられません、ご自身でチェックをして、相談



	窓口とかの紹介が必要な方には、併せて紹介できる窓口をそこにつなげております。個人でどういうふうに相談窓口を活用していただくかということにはなりますが、そのような形になっております。
寶澤委員長	11月、12月だとコロナのこともありバタバタしている時期だと。例えばアクセス数が増えてそこの相談窓口が書いてあるところの相談が増えたとか、そういったところまでは、まだわからない感じですか。
健康福祉局 健康政策課長	まだその関連づけた数値の分析はしてはおりません。
寶澤委員長	ありがとうございます。及川先生どうぞ。
及川委員	協会けんぽの及川です。ページを戻り2ページですが、各種健康審査の実施状況をご報告いただいたのですが、特定健診につながる特定保健指導の結果、今年度の状況が分かれば教えていただきたいのですが。
寶澤委員長	特定保健指導も始められていますか。
健康福祉局 保険年金課長	保険年金課長の水谷と申します。 特定保健指導ですが、前段となります国保の特定健診自体が、コロナの影響もあり、例年6月から開始のところ9月から開始と3か月遅れているという状況です。それに伴い、該当になる方への勧奨等もスケジュール的に押している状況です。 本日は、具体的な数字は手元に持っていないのですが、勧奨状況や事業所への委託をしてやっている部分などを確認してみますと、ちょっと数字的にはあまり伸びていないといえますか、少し低調な部分があるかなと考えております。
寶澤委員長	スタートが遅れると後ろに響いてくるのかなと思います。 でも保健指導の繰越はおそらくできないですね。
健康福祉局 保険年金課長	各年度の特定健診の結果を踏まえて指導するのが基本ですので、繰越はできないですが、保健指導の勧奨などは始めているのですが、特定健診の受診と併せましてコロナの関係もあり対面でやることに少し抵抗があると、お話をなさる方も一定程度いると承知しております。
寶澤委員長	ありがとうございます。ちょっと今年はいろいろと厳しい状況かなと。むしろ職場とかはどんな感じになっていますか。
及川委員	協会けんぽの場合は、被保険者本人の方が職場にいらして、健診の結果でご訪問させていただき、対面でも遜色なく御利用なさっていて、特に感染防止対策をきちんと行い、むしろ感染防止対策が取れない場合は、今年は見送りましょうという話もしながら進めています。 被扶養者の方たちは、国保の方たちと一緒に健診を受けられるのですが、今、お話があったように、やはりコロナによって健診を控えられた方が、仙台市の方ですと、仙台市の集団健診を被用者保険でまとめてやっているのですが、今年度は、いつもどおり6月、7月に実施をしたものですから、2割ほど受診者が落ちています。県内の扶養者の方たちは、現状では昨年比マイナス10%ぐらいということですね。

	指導も、都度ご利用いただいているような、そういう状況です。
寶澤委員長	その他いかがでしょうか。お願いします。
西村委員	<p>宮城労働局の西村です。</p> <p>5ページですが、何点かお伺いしたい点がございます。</p> <p>私ども職域におきまして健康確保の推進に取り組んでいますが、その中に心の部分も取り扱っておりまして、その中で（５）「仕事と心ころの相談会」というのがあります。夜間で、非常に利用しやすい時間帯に設定されているようですが、開催回数7回に対して、相談件数がやや低めの数字が出ているようです。何か理由といったものがあればお教えいただきたいというのが1つ。</p> <p>それから（7）ですが、3つ目に協会けんぽとの協力の下ということで、働き盛りの世代をターゲットとしながらチラシをお配りになられたということですが、こちらの各事業者からのレスポンス、何か反響、こういったものがもしありましたら参考までにお教えいただければと思います。よろしくお願い申し上げます。</p>
健康福祉局 健康政策課長	（５）「仕事と心の相談会」についてですが、大変申し訳ございません、障害者支援課の担当ですが、本日、課長が出席しておりませんので、調べて後ほどお知らせしたいと思います。
健康福祉局 障害福祉部長	<p>補足でよろしいでしょうか。</p> <p>「仕事と心の相談会」は、夜間開催しておりますが、特にコロナの影響でという話は聞いてはいないところです。</p> <p>それから、（7）の反応についても、現在特に聞いていないところですが、こちらの相談（7）は、特に新型コロナウイルスの影響で、働いている方に対しても様々影響があるだろうということで、心の相談だけではなくて、暮らし全般の悩みごとに答えられるように社労士や弁護士など、そういった専門家の相談を受けるというのと一緒に、課題を解決するまでに伴走型でソーシャルワーカーがついて支援をすることで、暮らし支える総合相談のほうは進めているところです。</p>
寶澤委員長	ありがとうございます。そのほか、お願いします。
松永委員	<p>仙台市医師会の松永です。</p> <p>2ページの各種健診ですが、今回の仙台市医師会の乳がん検診、子宮がん検診の委員会において、このがん検診などの申込みが4月の市政だよりに掲載され、各区役所に申込みに行くということだけは、我々医療者は分かっていたのですが、その委員会のときに、ホームページでも申込みができることが初めて分かりました。多分、どこかに書いてあると思うのですが、医療者側も知らなかったということですので、ぜひ何らかの形で広報をしていただきたいということです。</p> <p>それから一番下の（2）ピンクリボンオンライン講座の開催ですが、今まで多分、年1回、各大学でやっていると承知しておりますが、今回は白百合でしたが、今まで幾つの大学でやったとか、それから今回たし</p>

	<p>かオンラインになりました。今までは多分オンラインではなくて、集まって講習をするという形ですが、オンラインになったときに、どれぐらいの参加人数が増えたかとかをちょっと知りたいです。</p> <p>今もう既に各学会もオンラインになって、非常に参加者が多くなっているのですね。なので、オンラインでそういう講習をすれば、1つの大学だけでなくいろいろな大学からも参加者があるのではないのかなと思って質問させていただきました。</p>
健康福祉局 健康政策課長	<p>最初の電子申請の件ですが、今年度からスマホそれからタブレットにも拡大したことにより、昨年度は電子申請が5,585件ありましたが、今年度9,518件と大きく増え、そのうちスマホからの申請が5,696件ということで効果があったのかなと思います。先ほど委員おっしゃったように、周知についてはもう少し工夫が必要だとは思っておりますので、今後検討してまいりたいと思います。</p> <p>2ページのピンクリボンのオンライン講座ですが、昨年度までの講演会形式が、コロナ対策をどうするか推進委員会で検討したところ、若い世代を対象にということで初めて行った取組です。そのメンバーの先生のゼミの学生さんたち9名だけの参加でしたが、今後いろいろな大学にも広げていけると良いと委員の方々からお話をいただきましたので、今後検討してまいりたいと存じます。</p>
寶澤委員長	<p>多分、今回コロナで家のネット環境がだいぶそろってきたのかと思います。オンラインの啓発をすることでアクセスが増えるということと、多分先生がおっしゃられたのは、対面はとても良いことと思うのですが、自宅にいながら話が聞けるといところがポイントになってきて、ウェブ開催のよさと悪さというのは多分あると思うのですが、今後、市民にいっぱい聞いてもらいたいときに、直接集まるものに加えてオンライン配信をしますということをやると、本当に聞いてもらいたい話を多くの方々に聞いていただける、会場が満員でも聞けるとい状態になるのかなと。新たな手法だとは思いますが、ご検討いただければいいのかなと思いました。</p> <p>続きまして重点分野3、健康な心と身体を支える食生活について、どなたかご意見いただけないでしょうか。</p>
片倉委員	<p>7ページの3番の高齢者のフレイル、低栄養予防についての知識普及と実践への啓発ですが、仙台市の明治青年大学というのがあります。そのこの会員さんが900名ぐらいいらっしゃるの、こういった方々の活用は考えられないのでしょうか。</p>
健康福祉局 健康政策課長	<p>申し訳ございません。明治青年大学の件は、私どものほうで承知しておりませんでしたので、今後、少し調べてまいりたいと思います。</p>
寶澤委員長	<p>フェイスブックも立ち上げられたと。どのくらいの方が見ているとか、そういうのは市として把握されていますでしょうか。</p>
健康福祉局	<p>まだ始めたばかりで、ちょっと周知が行き届いてないところもありま</p>

健康政策課長	<p>す。閲覧数とすれば50ぐらい、フォロワー数が20件ぐらいですが、今回お役立ちレシピコンテストの優秀作品を載せたり、ロゴマークについての宣伝をしたりというところもあるので、少しずつ増えていくような工夫を考えてまいりたいと思っております。</p>
寶澤委員長	<p>フェイスブックやツイッター、住民の方々に情報が流れていくところ、もちろん活用は大変だとは思いますが、せっかくつくられたのであれば、ぜひ積極的にご活用いただくといいのかなと思います。</p> <p>それでは、重点分野4、生きる力を支える歯と口の健康づくりについてはいかがでしょうか。</p>
松永委員	<p>この歯と口の健康づくりに関して、妊婦さんに対して個別の歯科検診のシステムが多分できたと思うのですが、それについて何も書かれていないのですが、これについてはどうなのでしょう。</p>
子供未来局 子供保健福祉課長	<p>子供保健福祉課長の庄子と申します。このシステムは、平成28年8月から開始していますが、地域保健・保健所運営協議会の資料には掲載していませんでしたので、次回から掲載するようにしたいと思います。</p>
小菅委員	<p>仙台歯科医師会の小菅です。</p> <p>妊婦の歯科検診についてですが、これまで各区保健福祉センターで受診していただいたのですが、個別に登録歯科医療機関で受診できるようになりました。これまで保健福祉センターで検診をしていたときには、まだ検診受診率が一桁ぐらいだったと思うのですが、それが歯科医院で受診できるようになってから30%を超えるぐらいまで受診率が向上しておりますので、私どものほうで委託させていただいて、だいぶ伸びてきたなという感じがします。</p>
松永委員	<p>ある程度効果が出ているということで安心しました。</p> <p>妊婦さんに関して、虫歯があると切迫早産になりやすいというのとも言われ始めていますので、ぜひこれについてもよろしくお進めください。</p>
寶澤委員長	<p>重点分野5、大切な人の健康を守るたばこ対策の推進について、どなたかご意見ございませんでしょうか。(意見なし)</p> <p>続いて重点分野6、感染症予防についてのご意見はありますか。(意見なし)</p> <p>では、重点分野を支える社会環境の改善・整備について、ご意見いただければと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>私も参加していますが、健康づくり推進会議、本当に幅広いところを網羅されていて、すごくいい枠組みで動いているなと思っています。コロナのこともあり、なかなか対面で打合せができなかったのですが、非常に広いところから意見を集約しながら進めていることには、すごく感銘を受けたし、やっていただいていることに感謝しております。</p>
小田島委員	<p>ワーキンググループも設置していただいて、いろいろ皆さん議論をしていただく中で、コロナ禍の影響がどこまで日常の健康保健を守る上で広がるのかというような視点の議論があれば教えていただきたい。</p>

	<p>例えば、先ほどの子宮頸がんとか骨粗鬆症の検診の受診率は、このコロナ禍でも上がっている。ほかの検診に何か効果的な要因があれば、参考にしたら良いのではないか。また、心のケアについては、支援しなければいけない被災者の人数が多分減ってきているとは思いますが、コロナ禍にあって、被災された方々の孤立化も報道などではよく耳にするところですので、そういったコロナの影響について、どのように会議でそういった情報を集約して議論されているのか。また、今後の施策を進める上でも、そういった効果的な施策が活かされていくのか、どなたに聞いていいのかわからないのですが、委員長、お取り計らいをお願いします。</p>
<p>寶澤委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>コロナに関する状況報告やワクチンの話は、この後の報告となりますが、確かに今の視点はすごく重要で、恐らく今まで我々がコロナ抜きで考えていた対策に沿った市民プランに応じたご報告があったと思います。いろいろなものを多分修正しなければならない時期にきています。</p> <p>先ほどコロナのためにオンラインの環境がみんな整い、それによって良くなった部分もあり、もしかすると受診率の向上は、そういったところの良さかもしれないですが、気になっているのは、みんな外出しなくなり、夜みんなでご飯を食べにいくのがどのぐらいストレス解消につながっていたかが分からないのです。そういった心の問題が顕在化する可能性もあるので、Withコロナの中でこういった公衆衛生をやっていくべきか、すごく考えていかなければならないと思っています。</p> <p>これを事務局に振るのは若干酷かなと思いつつ、事務局側で何か検討していることと、仙台市の中でこんな議論が起きていますということ、こんな話をしていますぐらいのことをご紹介いただけますか。</p>
<p>健康福祉局 健康政策課長</p>	<p>今回、健康づくり推進会議、それからワーキングのメンバーの方々に、現在各団体でどんなことを工夫されているのかとか、今後どんなことを考えていかなければいけないのかというご意見をいただいているのですが、新しい生活様式というのが、これからはスタンダードになるという考え方を広めていかなければいけないのではないかとご意見、それからオンラインやSNSを活用していく必要があること、健康づくりの面からは、少し運動不足になったり食べ過ぎたりすることがあるので、そういった情報発信や新たな工夫をしなければいけないというようなご意見を皆様からいただいております、今後、今までのやり方ではないやり方を考えていかなければいけないと認識しているところです。</p> <p>コロナ禍で健診の申込件数がどれぐらい落ち込んだのだろうかと思いを調べてみると、それほど落ち込んでいるわけではなく、マイナス3%から大きいところはマイナス13%ぐらい申込数が減っているところはありますが、子宮頸がんの検診や前立腺がんの申込みが増えており、こういった原因で増えているのかという分析はできていないのですが、今後、コロナ禍であっても自分の健康を守るために健診はちゃんと受けま</p>

	<p>しょうという周知は続けていく必要があると感じております。</p> <p>心のケアで、被災者支援は、確かに落ち着いてきているように一見見えるかもしれませんが、被災者の健康調査というのを毎年やっております、その中で、心の健康につきましては、潜在的にずっと皆さんがストレスを抱えているということは、ほかの被災者ではない方の調査結果に比べると高いことが分かっていますので、ずっと今後寄り添いながら支援をしていく必要があると思っています。</p>
寶澤委員長	ありがとうございます。そのほかよろしいでしょうか。
猪股委員	<p>一気にコロナ禍で、オンラインであったり、電子申請の拡大であったり、それからLINEの相談であったり、IT化が進んできたなど感じました。これは時代の流れに沿って非常に大切なことだし、避けては通れないことと思いましたが、先ほどの「こころの体温計」やフェイスブックなど、こういったアプリケーションもネットの世界にはたくさんあり、今お伺いしたところ、閲覧数がやはりびっくりするほど少ないと。やはりこれは一般の企業であれば、アプリ製作後フェイスブックをつかって、それを継続していくのも多大な労力とお金がかかりますので、目的は何かということと、もしかしたら伸びないのは内容と閲覧する人のミスマッチがあるのかとか、そういった分析をしていただき継続していくといいかなと思いました。</p> <p>「いのち支えるLINE相談」も、相談内容の分析までいけると次につながると思いますし、委員長が発言しました「こころの体温計」も、メンタルクリニックなどで出しているアプリもたくさんありますので、仙台市としてこのホームページにせっかくアクセスした、そこから次の一歩何ができるのかという視点も大切なのかなと思いました。</p>
寶澤委員長	まず今年度、体制整備をして、さらにそれをどう活用していくか、またはどこに問題点があるかというところは、恐らく分析を進めながらやっていただくのだと思いますが、お願いします。
健康福祉局 健康政策課長	委員のご指摘のとおりですので、今後、少し数値的にも分析をし、それからいろいろな事業の仕組みももう一度見直しながら取り組んでまいりたいと思います。どうもありがとうございました。
寶澤委員長	<p>インフラを整えるというところまでやっていただいたということかなと思います。引き続きよろしくお願いします。</p> <p>次の議事に移らせていただきます。新型コロナウイルス感染症の状況について、資料2に基づきまして事務局よりご説明お願いいたします。</p>
健康福祉局 健康安全課長	<p>健康安全課の中道です。資料2、市内の感染状況についての資料です。</p> <p>先ほど重点分野6でも若干触れさせていただきましたが、専門家の委員で構成しております仙台市感染制御地域支援チームの方々と共同で発生状況の分析を行っており、またチームの専門家の方のコメントをいただき、週報、月報という形で市のホームページで公表しています。</p> <p>お配りしております資料、週報の最新版のものに基づきまして市内の</p>

感染状況についてご説明をいたします。

なお、こちらは1月18日から1月24日までの発生状況を基に作成しております。毎週金曜日の夜に新たな週報を公表しており、土曜日にはご覧いただけます。次回分は今週末に公表する予定ですので、ぜひご覧いただければと思います。

それでは、図1、診断日別の仙台市の新規陽性者の人数です。棒グラフが日ごとの陽性者、折れ線グラフが7日間移動平均という数値です。ご覧いただきますと、12月以降特に感染が拡大している状況が見てとれると思いますが、折れ線グラフの7日間移動平均では1月10日に37.4人で最高値になっています。期間の最終日の1月24日は19.7人で、最高値からは少し落ち着いてきた状況となっています。

次のページ、図2ですが、こちらは週ごとの年代別の新規陽性者の割合です。感染者全体の中では、20代から50代といった活動のある方々の感染が5割を占めているという状況です。

次の図3ですが、こちらは実数としての年代別の陽性者の状況です。年代別でも若干前の週と動きがありますが、総数といたしましても1月11日からの週が179人、18日からの週が138人と推移している状況です。

次のスライド、こちらは参考としておつけしています国の分科会のステージⅢとⅣのご説明ですので、ここは割愛をさせていただきます。

次の表1。こちら仙台市の感染状況・医療提供体制に関する資料を前の週と比較したものです。

指標の中身といたしましては、陽性者数や、感染経路不明な方の割合、検査の陽性率、それから入院している方の人数といった数値になっておりまして、いずれの指標も減るといい方向に進んでいる指標です。

前の週と比較で申しますと、感染状況はほとんどの指標が下がっている状況です。

③直近1週間／先週1週間の陽性者数比、こちらについては若干増えている状況ですが、こちらは1を超えると増えていると。1を割っていると減っているという数値ですので、こちら0.77で、状況としてはいい方向に動いているという指標です。

また一方で、医療提供体制ですが、こちらは高い水準で推移をしている状況です。その後、退院も少し出てきておりますので、数値としては改善をしているということもありますが、この期間についてはかなり厳しい状況であったというところです。

次のスライドに進んでいただくと、表の2で仙台医療圏の医療提供体制の状況というところ、確保している病床と実績の使用率というところ、全体としても重症者としても、いずれも5割前後という数字、この時期は厳しい状況です。若干、直近の数字では少し退院等も進んでいるという状況もありますが、こういった状況です。

次のスライドは割愛をさせていただきます、最後ページの裏面をご

覧いただければと思います。

感染拡大防止のための情報提供ですが、(1)がクラスターの発生状況です。12月にはかなりクラスターも多く発生した状況ですが、1月には減っている状況がございます。この次の週には若干クラスターも発生しておりまして、高齢者施設ですとか医療機関、医療サービス業といったところでクラスターの発生が確認されているという状況です。

表3ですが、宮城県とともに共同で策定しております情報提供基準がございまして、そちらのほうで施設に滞在があった方、施設内で複数の感染が成立したというふうに考えられる場合に、その施設の業種、業態、また施設内の状況で感染拡大に影響があったのではないかと推測される事項について情報提供して注意喚起を行っているというものです。

この1月18日から24日までの期間は4件の公表を行ってございまして、1つが接待を伴う飲食店、それから酒類を提供する飲食店、高齢者施設、医療施設、それぞれ1件ずつという状況です。

調査中のところもあります。中ではやはり十分な距離を取らずに、マスクを着用せずに会話をしていたという状況が確認されております。こういったところが感染拡大につながったというケースも考えられるというところです。

最後に、2枚目のスライドにお戻りいただければと思います。

この期間、仙台医療圏、病床のほうはかなり厳しい状況があったという状況です。直近では少し改善の傾向が見られますが、かなり厳しい状況であったというところです。

陽性者数は、そうした中でも減少傾向が見られる状況でして、市民の皆様への感染防止対策の努力によるものと評価をいただいています。

3ページ目ですが、市民の皆様にご気づいていただきたいことについて、支援チームからコメントをいただいております。

感染拡大を食い止めるためには、市民一人一人がマスク、手洗い、3密を避ける行動、基本的な感染対策ですが、こちらを確実に行っていただくことがやはり重要であるというようなことをいただいております。

また、食事をしながらの近い距離でのマスクを外しての会話は感染リスクがありますので、食べることと話すこと、こういったことは別々に行ってくださいということのコメントをいただいております。

会食、また休憩室でおやつを食べながら会話をする、また職場での昼食を食べながらの会、そういったところにはリスクがあるということです。こういった点について、特に注意をいただきたいということで専門家の方からのコメントをいただいております。

以上、感染状況について週報を基にご説明いたしました。冒頭にもお話ししましたが、今後も毎週こういった形で週報のほうを更新して最新の情報をホームページにアップして市民の皆様にも届けてまいりたいと思っていますので、引き続きご覧いただければと思います。



<p>寶澤委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>本当に膨大な情報を毎日、毎週、ご報告いただいております。我々も情報を見ることでごく安心させられる、また警戒すべきところを警戒できているかと思っております。本当にありがとうございます。</p> <p>それでは、こちら新型コロナウイルス感染症の状況について、皆様からご意見、ご質問ございませんでしょうか。</p> <p>よろしければ、続きまして新型コロナウイルスワクチン接種の状況についても事務局よりご説明いただければと思います。</p>
<p>健康福祉局 保健管理課長</p>	<p>保健管理課、山本でございます。お手元の資料3に沿いまして、新型コロナウイルスワクチン接種の状況についてご説明申し上げます。</p> <p>自治体説明会②をご覧ください。</p> <p>ワクチンの接種は、現在、ワクチンが薬事承認された場合に速やかに接種できますよう、国・県・市が連携して接種体制を整えております。</p> <p>この事業は、仙台市民108万人の方々に2回ずつ接種するという、これまでにない大がかりな取組です。本市では、先週1月25日にワクチン接種推進室を設置しまして、医師1名を含む22名が配置されました。</p> <p>自治体説明会の下スケジュールのイメージの資料をご覧ください。</p> <p>国が示しているスケジュールのイメージですが、まず医療従事者の方を皮切りに、上のほうから順番に高齢者、基礎疾患のある方、その他の方、2月末以降に順次接種体制を整えるということとなっております。</p> <p>最初に医療従事者への接種は県が主体に調整をし、その後、高齢者やその他の市民の方々への接種は市が調整主体となります。</p> <p>今後は、医療機関との調整、接種のための案内と券の準備、それから当初接種が見込まれるワクチンはマイナス75度という特殊な保存をする必要があるため、超低温冷凍庫の配置など準備を行っています。</p> <p>今のところ、3月中旬以降に65歳以上の高齢者の方々に接種券を発送し、その他の市民の皆様へのご案内は4月以降となる見込みです。</p> <p>これらは、ワクチンの供給ですとか接種を行う医療従事者の方々などの確保を前提とした現時点での国のイメージですが、本市におきましても条件が整い次第、できるだけ早く希望される市民の皆様にご接種していただけるよう準備を進めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。</p>
<p>寶澤委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>市としては、医療従事者向けの県調整の後、高齢者向けを優先的に始めるというスタートかと思っております。</p> <p>3月5日まで、計画では接種券の発行準備、印刷を進められるという、もうかなり忙しいペースですが、リストアップから調整から、結構タイトかなとは思いますが、松永先生何かありますか。</p>
<p>松永委員</p>	<p>仙台市医師会では、仙台市と毎週会議を重ねており、接種数の膨大さ、接種期間が非常に短いということ、またワクチンの取扱いが低温で保管</p>

	<p>しなくてはいけないこと、輸送をどのようにするか、輸送した後の保管をどうするのか、それから1バイアルが6人と決まっているのをいかに無駄なくやるかということで、接種のときは、その1バイアルを溶かしてしまうと1日5時間か6時間の間に接種しなくてはいけないというような制限がありますので、その制限でもって非常に大変な事業です。</p> <p>最初、話し合ったときに「これできないよ」というイメージがありましたが、回数を重ねて、国の方針もいろいろ変わってきて、いろいろなパターンを考え、接種に向けて着々と準備をしているところです。</p> <p>この事業、恐らく医師会の会員の開業医の先生方が仙台市は非常に大きな仕事をしなくてはいけないと思っておりますので、会員の先生方には、今盛んに「頑張りましょう」とお伝えしておりますし、あさってワクチンに関する講演会も予定していきまして、その後、実際にどういふふうにするかとか、だんだん具体的になっていくかなと思います。</p> <p>皆さんに早くたくさんの方に接種していただくように、仙台市医師会も頑張っておりますので、ぜひ応援をよろしくお願いいたします。</p>
<p>寶澤委員長</p>	<p>冬なので、恐らくそもそも患者さんが多い時期にこういったことがあって大変かと思えます。やはり先生がおっしゃられた市民の方になるべく早く、多く打っていただいて、早く収束することが重要かなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>最後「その他」の項目、委員の皆様、あるいは事務局から何かありますか。事務局から、委員の皆さんもよろしいでしょうか。</p> <p>ないようですので、以上で議事を終了させていただきます。</p> <p>やはり直接委員の皆様と一緒にお話ができると、何かいろいろなことが分かるし、こういった場、今回仙台市のほうで設けていただき、やはり直接打合せができるというのは本当にいいことだなと思いました。</p> <p>それでは、私から事務局に進行を引き継ぎたいと思います。</p>
<p>〈閉会〉 進行</p>	<p>以上をもちまして、令和2年度第2回仙台市地域保健・保健所運営協議会を閉会いたします。</p> <p>次回は、本年5月から6月ごろに実施をする予定と考えております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>

令和 年 月 日

署名委員